

▼別ショットの写真



めて足を踏み入れた小学校で、新しい年生の子どもたちは期待と不安が入り混じった表情を見せていました。

今月の表紙は、四月六日に幸田小学校で行われた入学式での一枚です。お父さんやお母さんと手をつなぎ、初

今月の表紙

みんなの 広場

皆さんからのお便りをお待ちしています

〒444-0192 菱池字元林1-1 幸田町役場企画政策課広報広聴G
E-mail:kikakujoho@town.kota.lg.jp ☎62-1111 (内線334)
FAX63-5139

こうたの民話

『由良さんのきつね』

夕焼けが西の空をまっかに染めている中で、牧野さんのおじいさんが、こんな話をしてくださいました。

見てごらん。学校の山桃の木が見えるだろう。あの山桃の木があるところは、むかし芦谷と荻のさかいだったんだよ。あの山桃の木より東は荻、西は芦谷というわけだ。だから、今も切らずに大切にしているんだよ。

今、荻谷小学校の建っているところの大部分は、もと由良孫右衛門さんという人の屋敷のあったところだよ。由良さんの屋敷、それはそれは大きな屋敷だったよ。屋敷の森には、大きなしいやくすの木が何本もあって、大きな枝をわっと広げていて、昼間でもうす暗いほどだった。仲間といっしょに、かくれんぼをしたり、しいの実をひろいにいったり、よく遊びにいったもんだよ。

由良さんの屋敷のいちばんおくに、大きなくすの木があった。なにしろ古い木なんで、根元のところは、大きなうろになっているしなんでも古いきつねが棲んでいるということだった。わんぱくぼうずどもも、気味悪がって、めったに近づかなかつたくらいだったよ。

この由良さんのきつね、ふしぎな力を持っているだけでなく、字だって、読んだり書いたりできるということだった。箱根山(神奈川県)のきつねに、「箱根の小山はどんなとこ」と手紙をだしたら、「箱根は日も照る雨も降る」という返事がきたということだった。

どうして字を読んだり書いたりできたって。それはな。学校のえんの下に入って、子どもたちといっしょに勉強したからなんだよ。

みんなの作品展!

平成26年度 幸田町児童・生徒作品展からのセレクトです



豊坂小4年
うえだ かずま
植田 和真 くん



坂崎小4年
にしやま せな
西山 世菜 さん

皆さんの作品を募集します。応募方法は、はがき裏書きもしくは作品を写真に撮りタイトルと作者名(ペンネーム可)をご記入のうえ、企画政策課広報広聴Gまでお送りください(デジカメ写真の場合はメールで。)

川原の民話

「くすがる」

5月、ゴールデンウィークもきょうで終わり。来る日も来る日も大空に鯉の親子を泳がせた「のぼり竿」の片付けに追われるお父さん……
「なかなか杭が抜けたわ。しっかりくすがるもんだ」と

「なかなか杭が抜けないんだよ。しっかり刺さっているものだから」
「くすがる」という意味だ。

この「くすがる」は、「突き刺さる」という意味の自動詞で、「突き刺す」という意味の他動詞は、「くすがる」といいます。「くすがる」を調べてみると、「串挿す」が出てきました。確かに、「くすがる」のは、釘や杭など、「串」と同じか、それよりも太いもので、「針をくすがる」とか「トゲがくすがる」なんて言いませんし、ほかにもこれといった説もありません。

でも、「人形の首を挿げる」とか「鼻緒を挿げる」のように、「穴にはめ込む。穴に通す」ことを「挿げる」といい、穴も開いていないのに、「挿げる」ことはできませんが、「くすがる」ことは、例文のよう(くすがる)のです。

さらに、「挿げる」には、「くすがる」のよつな自動詞はありませんし、「串」は、この地方では「ほせ」といいますので、やはり、語源は「串挿げる」だと断言はできませんね。

(文・ついで)



青春トークリレー
第266走者

すずき ちえ
鈴木 千恵 さん

横落区在住 20歳 職業 大学生
身長 152cm 血液型 AB型
好きなタイプ 真面目な人
好きな芸能人 瀬戸 康史

私は今、福祉の大学に通っています。中学から、福祉の仕事に携わる事が夢だったので、今は色々な事が学べてとても楽しいです。実習へ行くたびに、やりたい分野は変わってくるけど、焦らず自分の本当にやりたい事を見つけていきたいと思います。

それから、私はスポーツが大好きで、今はマラソン、サッカー、ネオホッケーをやっています。愛知駅伝に選手として出場し、ネオホッケーでは全国大会で準優勝することができました。スポーツの楽しさを教えてくれたのは幸田町なので、その楽しさをみなさんに伝えることで、幸田町へ恩返ししていきたいと思います。



はろーキッズ

掲載写真を印刷してプレゼント。
希望者は企画政策課まで。



「自然の中へ」
「某月某日
〜深溝保育園」
深溝保育園のまわりは、自然でいっぱい。その自然を大いに満喫できる山散策。お兄さん、お姉さんと一緒に行くと、いっぱい刺激をもらい、いつもの数倍楽しむことができることを子どもたちは知っている。「これは〇〇こういうんだよ」と誇らしげに教えてくれるお兄さんの話を、息を切らしながら一生懸命聞く年少児。「この気をつけて」と言われたやまびき、踏ん張

りきれず、ズッコケ。泣く子もいる。でも、段々泣かなくなる。みんな強くなっていく。お兄さんたちのように。無事に帰って来られると安堵の表情。そして何だか誇らしげ。服や靴の汚れが、子どもたちのがんばりを表している。一つやりき



り自信がついていく。こうやって心身共に大きくなっていくんだな。子どもってすごい。自然ってすごい。その日の給食はやけに静か。ご飯がいつもより数倍おいしい！自然の中で過ごせる幸せな楽しい時間を、これからも大切な仲間とたくさん味わっていきたい。

編集者のひびくと

穏やかな気候になり、服装が薄着になると、お腹の出具合が気になる編集者のKです。

幸田の4月といえば、文化公園で開催される幸田しだれ桜まつり、今年で第17回を迎えました。地元保存会のみなさんの努力により、たくさんの方々が、色鮮やかなしだれ桜を楽しむことができます。公園の奥には、新聞でも紹介された、しだれ桜のトンネルがあり、多くの人たちが桜と一緒に撮影をしていました。まつり期間中には、文化協会の加盟団体や中央小学校の三河万歳クラブによるステージイベント、子ども向けのピング大会、公園内のさくら会館で吊るし雛などの作品展示、そして、お団子などの飲食物の出店もあり、たくさんのお花見客でにぎわいました。地元で桜が楽しめる公園があるのは素晴らしいなと改めて感じました。

さて、春の訪れを感じるとあつという間に新緑の季節に。5月のゴールデンウィーク明けには、中学校の春季体育大会が開催されます。スポーツ大好き人間なので、6月号で素敵な写真が紹介できるように、頑張っって撮影したいと思っています。熱戦を期待します。ちょうど1年前にも撮影に行きましたが、大半の写真がブレブレで使えません。1年間の修行の成果が発揮できそうですよ。(K)